

2022年度タイ国日本食レストラン調査

調査期間:

- ・店舗数調査: 2022年9月1日～11月15日
- ・状況ヒアリング調査(17社・団体): 2022年11月15日～12月10日

調査方法:

- ・各社ホームページ、Facebookページ
- ・関連する新聞マスコミ報道
- ・電話取材

対象店舗:

- ・日本食または日本風アレンジされた料理を提供する店
- ・日本食メニューが過半であること
- ・客席具備の外食店舗

(※客席を具備しないデリバリー専門店は対象外)

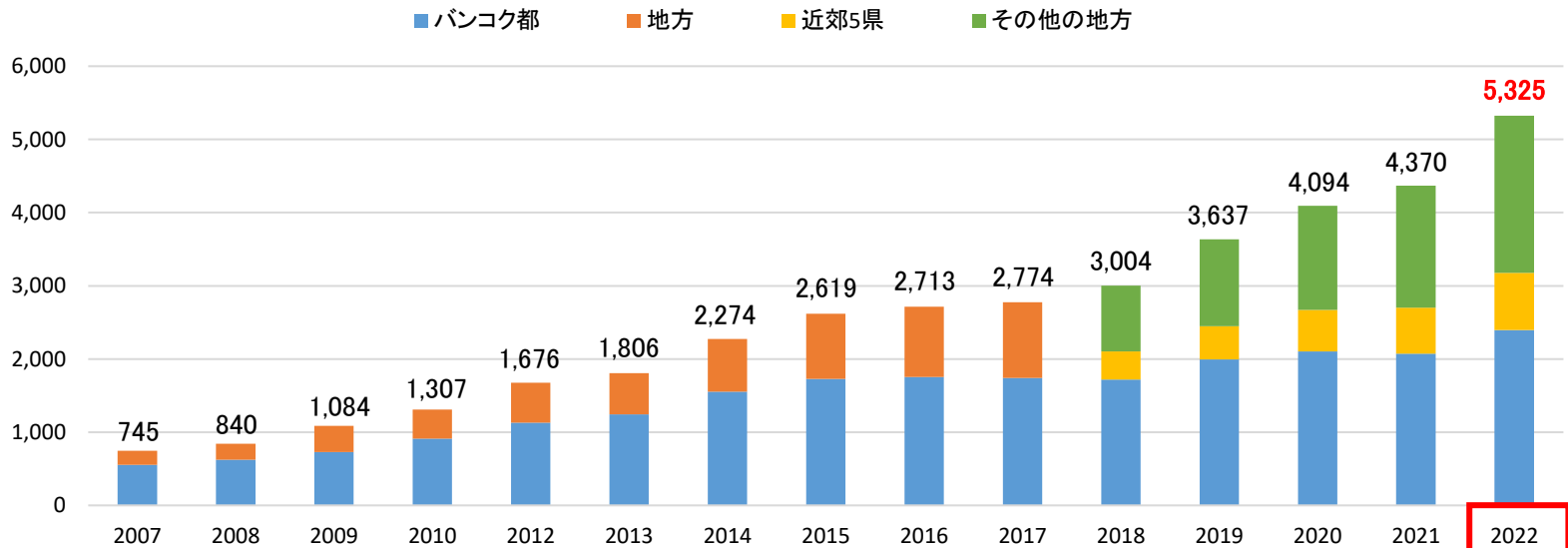
【分類方法】

寿司	寿司、魚介料理、海鮮料理店
日本食	料亭、懐石、郷土料理、総合和食店、定食、和食ファミレス
ラーメン	ラーメン店、餃子
すき/しゃぶ	すき焼き、しゃぶしゃぶ
居酒屋	居酒屋、焼き鳥店
焼肉	焼肉店
喫茶	喫茶店、珈琲店、ケーキ店
丼専門	牛丼、天丼、豚丼、海鮮丼
カレー/オムライス	カレーライス、オムライス
洋食	洋食
揚げ物	豚カツ、串カツ、天ぷら
鉄板お好み	鉄板料理店、お好み焼き店、たこ焼き店
蕎麦うどん	蕎麦、うどん

タイにおける日本食レストラン店舗数の推移

- 2022年は5,325店舗と前年から21.9%増加。増加数955店舗は2007年の調査開始以降最大の増加数となった。
- バンコク、バンコク近郊5県、その他の地方、いずれも伸びているが、特にその他の地方やバンコク近郊5県の伸び率が大きい。

図. タイにおける日本食レストラン数の推移(単位: 店舗)



その他の地方	190	215	355	394	548	565	721	891	961	1,034	903	1,189	1,425	1,671	2,147
近郊5県											383	455	564	626	784
バンコク都	555	625	729	913	1,128	1,241	1,553	1,728	1,752	1,740	1,718	1,993	2,105	2,073	2,394

※2011年は調査を実施せず。

※2017年以前はバンコク近郊5県とその他の地方を分けていない。

※バンコク近郊5県とは、ナコンパトム、ノンタブリー、パトゥムターニー、サムットプレーカーン、サムットサーコーンを指す。

※2020年、2021年、2022年は休業中の店舗は含まない。

日本食レストラン店舗数調査 業種別

- 新規店舗は1,404店舗。ほぼ全てのカテゴリで増加したが、昨年度に続き、寿司、日本食、ラーメンの新規店舗が目立つ。
- コロナで休業していた店舗の営業再開もしくは閉店により、休業中店舗数は2021年の231店舗から105店舗に減少。

表. 業種別店舗数まとめ(単位:店舗、増減率=%)

業種	2020	2021	2022			
			新規	減少	合計	増減率
寿司	1,038	1,196	448	213	1,431	19.6
日本食	1,015	1,071	263	61	1,273	18.9
ラーメン	420	459	185	33	611	33.1
すき/しゃぶ	336	332	75	21	386	16.3
居酒屋	285	275	105	11	369	34.2
焼肉	268	264	96	19	341	29.2
喫茶	205	227	85	34	278	22.5
丼専門	146	152	31	16	167	9.9
カレー/オムライス	91	106	50	15	141	33.0
洋食	101	114	22	7	129	13.2
揚げ物	93	94	30	1	123	30.9
鉄板お好み	67	60	4	9	55	-8.3
蕎麦うどん	29	20	10	9	21	5.0
合計	4,094	4,370	1,404	449	5,325	21.9

【参考】
休業中の店舗は、
2020年調査では70店舗、
2021年調査では231店舗、
2022年調査では105店舗
であった。

(備考) 減少には、閉店・休業した店舗、恒久的なデリバリーへの業態変更、メニュー変更、
座席具備除外等により対象外となった店舗が含まれる。

日本食レストラン店舗数調査 バンコク/バンコク近郊5県/その他の地方・業種別

- バンコク、バンコク近郊5県、その他の地方に分類すると以下の通り。

表. バンコク/バンコク近郊/その他の地方別、業種別店舗数まとめ(単位:店舗、増減率%)

業種	バンコク				バンコク近郊				その他の地方			
	2020	2021	2022		2020	2021	2022		2020	2021	2022	
			店舗数	増減率			店舗数	増減率			店舗数	増減率
寿司	433	432	469	8.6	164	210	271	29.0	441	554	691	24.7
日本食	431	427	473	10.8	143	144	172	19.4	441	500	628	25.6
ラーメン	240	241	300	24.5	67	76	104	36.8	113	142	207	45.8
すき/しゃぶ	146	135	158	17.0	48	51	53	3.9	142	146	175	19.9
居酒屋	201	181	220	21.5	10	13	23	76.9	74	81	126	55.6
焼肉	148	145	178	22.8	37	33	42	27.3	83	86	121	40.7
喫茶	139	147	174	18.4	19	22	26	18.2	47	58	78	34.5
丼専門	97	101	105	4.0	23	22	26	18.2	26	29	36	24.1
カレー/オムライス	59	59	78	32.2	12	13	20	53.8	20	34	43	26.5
洋食	72	80	91	13.8	17	18	20	11.1	12	16	18	12.5
揚げ物	72	72	93	29.2	14	15	21	40.0	7	7	9	28.6
鉄板お好み	42	37	36	-2.7	9	8	6	-25.0	16	15	13	-13.3
蕎麦うどん	25	16	19	18.8	1	1	0	-100.0	3	3	2	-33.3
合計	2,105	2,073	2,394	15.5	564	626	784	25.2	1,425	1,671	2,147	28.5

(備考) バンコク近郊5県とは、ナコンパトム、ノンタブリー、パトゥムターニー、サムットプレーカーン、サムットサーコーンを指す。

個店店舗数および複数店舗展開のブランド数分析

- 複数店舗を持たない個店の店舗数は前年から28.3%増加し1,947店舗。
- 複数の店舗を持つ日本食レストランのブランド数も増加しており、特に2~5店舗の店舗数を持つブランドが大幅に増加。

図. 個店の店舗数の推移

(単位: 店舗)

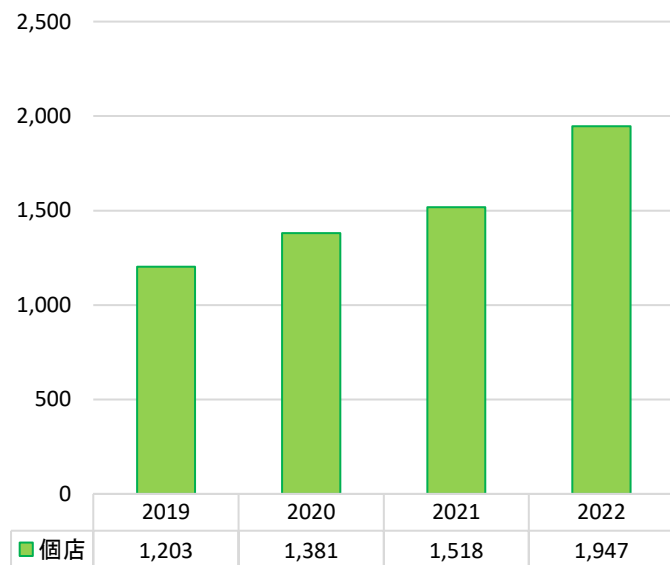
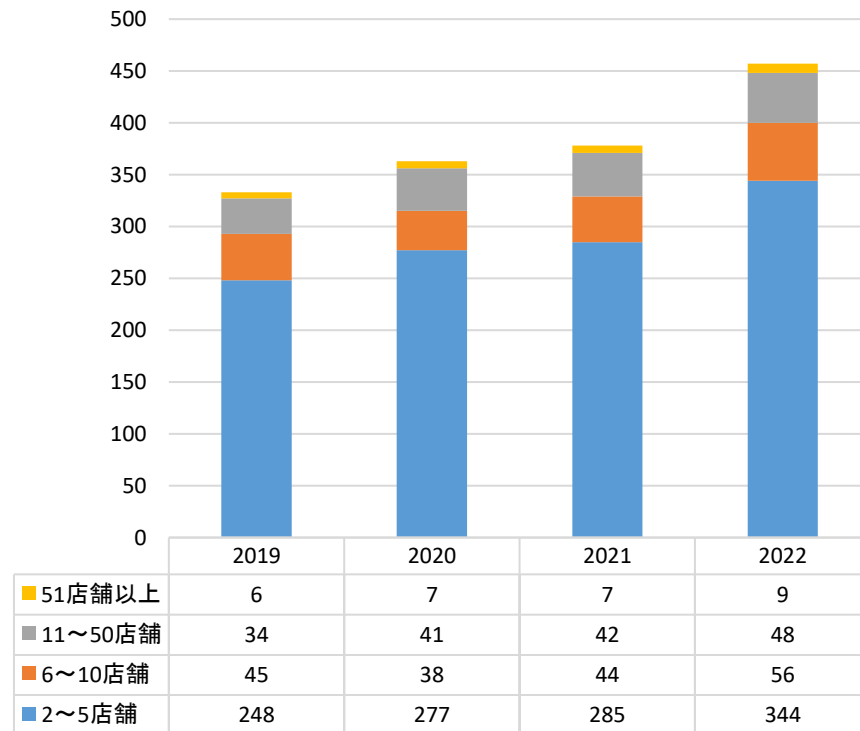


図: 複数の店舗を持つ日本食レストランのブランド数の推移

(単位: ブランド)



客単価情報による分析

- 2022年営業確認店舗を客単価別に見ると、バンコク・地方ともに101～250バーツの店舗が最も多く、251～500バーツの店舗が続く。その次に多いのは、バンコクでは501～1,000バーツの店舗、地方では100バーツ以下の店舗。
- 新規店舗は地方・バンコクの101～250バーツの店舗、次いで地方の100バーツ以下の店舗が多かった。

表. 営業確認店舗の客単価別内訳

客単価	営業確認店舗			うち新規店舗		
	全国	バンコク	地方	全国	バンコク	地方
100バーツ以下	686	188	498	218	53	165
101～250バーツ	1,936	855	1,081	413	171	242
251～500バーツ	1,190	602	588	175	84	91
501～1,000バーツ	596	404	192	96	70	26
1,000バーツ超	208	176	32	33	24	9
確認できず	709	169	540	469	126	343
合計	5,325	2,394	2,931	1,404	528	876

出所：タイのグルメレビューサイトWongnai (<https://www.wongnai.com/>)のデータを元にJETRO/バンコク事務所作成
備考：確認時期＝2022年9月1日～11月15日

日本食レストランの分布

- 全国的に増加傾向にあるが、特にバンコク、バンコク近郊、観光地、地方都市で店舗数が多い。
- 2020年、2021年に引き続き、全ての県で日本食レストランが営業されていることを確認。

図. 日本食レストランの分布

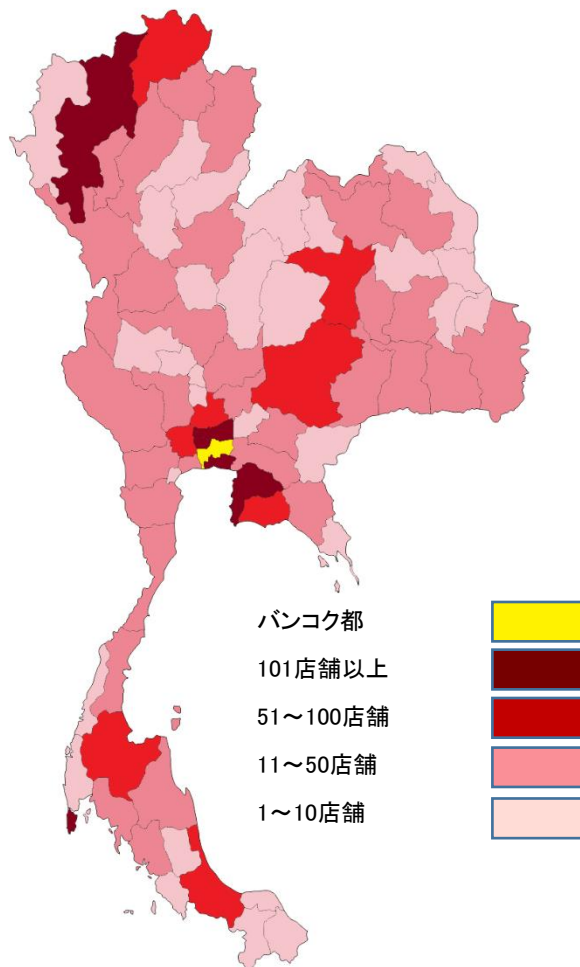


表. 各県の日本食レストラン店舗数、タイ人口、観光客数、在留邦人数

順位	県名	2021 (店舗数)	2022			人口 (2021年) (万人)	観光客数 (2019年) (万人)	在留邦人数 (2017年) (人)
			新規	減少	店舗数			
1	バンコク都	2,073	528	207	2,394	553	4,905	52,871
2	チョンブリー県	259	108	15	352	158	1,581	7,184
3	ノンタブリー県	281	74	27	328	129	107	700
4	チェンマイ県	190	73	22	241	179	892	2,489
5	サムットプラカーン県	139	49	13	175	136	120	1,130
6	パトゥムターニー県	114	45	12	147	119	70	1,211
7	プーケット県	85	34	6	113	42	1,383	715
8	ナコンパトム県	61	31	2	90	92	140	229
9	ナコンラーチャシーマー県	80	18	11	87	263	580	594
10	ソンクラ県	70	16	10	76	143	623	86
11	コーンケン県	63	22	10	75	179	353	226
12	ラヨン県	49	28	9	68	75	494	536
13	チェンラーイ県	39	23	3	59	130	324	401
14	アユタヤー県	42	13	2	53	82	169	1,117
15	スラーターニー県	46	12	7	51	107	551	141
16	ウドンターニー県	39	14	5	48	157	276	170
17	サムットサーコーン県	31	13	-	44	59	75	120
18	ウボンラーチャターニー県	33	15	5	43	187	181	59
19	チャチュエンサオ県	21	22	2	41	72	55	102
20	ラーチャブリー県	30	17	6	41	87	104	44
その他		625	249	75	799	3,668	6,533	2,629
合計		4,370	1,404	449	5,325	6,617	19,516	72,754

出所: タイ国人口=タイ国内務省(2021年年末時点)、観光客数=タイ国観光およびスポーツ省(2019年)、
在留邦人数=日本国外務省(2017年10月時点)

日本食レストランを巡る近況、今後の見通し

● 客足・売上は昨年から大幅に回復したものの、コロナ前2019年の水準にはまだ至らず

- ・ 感染拡大時に実施されたタイ政府による飲食店への各種規制はすでに解除済み。2022年は外国人の入国規制も徐々に緩和され、タイを訪れる観光客数は回復途上にある。
- ・ 関係者へのヒアリング(11月15日～12月10日)によると、日本食レストランの売上状況はコロナ禍前2019年の70～90%まで回復しているとの意見が多数。回復しきっていない理由としては、原材料価格の高騰、会食・パーティー需要や外国人観光客の回復が遅れていること等が挙げられている。

2022年第1～3四半期大手日本食レストランチェーン運営会社の売上は、2019年同時期比43～112%

(日本食レストランの大手チェーン各社の財務報告)

2022年の外食産業の市場規模は前年から12.9%拡大し4,065億パーツになると予測

(2022年10月25日KASIKORN RESEARCH CENTER – ECON ANALYSIS)

● 正常化に伴いフードデリバリーの利用拡大は減速するも、今後も利用は続く見通し

- ・ 関係者によると、正常化が進むにつれ外食需要が回復しフードデリバリーの利用は減速しているが、今後も利用は続くとの意見が多い。今後のフードデリバリー活用への積極性は各店舗の主力メニューや戦略によって異なる様子。
- ・ フードデリバリーのみで料理を提供する飲食店(本調査の店舗数調査の集計対象には入っていない)も増えており、日本食も多く提供されている。

2022年のフードデリバリーの市場規模は前年から1.7～5.0%拡大と予測。拡大の速度は前年の46.4%から大きく低下。

(2022年6月22日KASIKORN RESEARCH CENTER – ECON ANALYSIS)

● タイにおける今後の日本食普及の見通し

- ・ 2022年のタイの日本食レストラン数は、普及型チェーン店、フランチャイズ展開店、タイ人経営の個店の増加が寄与し大幅に増加した。
- ・ 関係者によると、タイでは30年以上前から日本食が提供されており、若い世代は子供の頃から日本食に慣れ親しんでいる人が多い。今後は特に地方において、より広く日本食レストランが浸透すると共に、価格帯の多様化により、より多くの方に多様な形で日本食を提供することが出来るようになるかと期待される。

出所： 日本食関係者へのヒアリング調査(11月15日～12月10日)、各社ウェブサイト等を元にJETROバンコク事務所作成